否定接頭辞 *un-* の造語意味

独和辞書の記述からみる反義と相補

磯　部　美　穂

キーワード：否定接頭辞 *un-*，造語意味，造語モデル，反義と相補

1．はじめに

接頭辞 *un-* は，古高ドイツ語と中高ドイツ語の *un-* に由来し，ゲルマン語以外ではラテン語の *en-*，*in-*，ギリシア語の *a(n)-* と起源を同じくする。「土着の接頭辞（indigene Präfixe）」である *un-* は，現代ドイツ語では，特に外国語を起源とする形容詞と結合し，新しい語彙を生み出すことのできる生産性の高い接辞のひとつに数えられる（vgl. *unclever, uncool* Fleischer/Barz 2012[4], 115）。「否定接頭辞（Privativpräfix）」という用語が用いられているように（Paul u.a. 1998[24], 398），接頭辞 *un-* は結合する基礎語（Basiswort）の意味内容の「否定・反義」をあらわす派生語を造り出す（野入・太城 2002，146）。

これまでの造語研究においても，*un-* の接辞としての機能と意味は，造語モデルの構築と共に体系的に記述されてきた（vgl. Fleischer/Barz o.a., 354, Motsch 1999, 311, 435）。しかしながら，多くの派生語の意味解釈を可能にする造語モデルが構築されているにも拘わらず，辞書ではいまだに多くの語が見出し語として掲載され，意味の記述が求められている。例えば，学習者向けの独和辞書を参照すると，1000語を超える派生語が見出し語として掲載されている[1]。見出し語として，すでに否定の意味を失った *un-* を語頭にもつ語彙（z. B. *Unfall*（事故），*Unkraut*（雑草），*Unsitte*（悪い習慣））から，中高ドイツ語時代の用法に起因する過去分詞と結合した派生語（z. B. *unangestastet bleiben*（手をつけられないままの），*et. unbeachtet lassen*（～を無視する））[2]，接尾辞 *-lich* や *-bar* を伴う形容詞・副詞と結合した派生語に至るまでの語が掲載されている。このことは，*un-* がドイツ語史において長期に渡り多様な用法で用いられてきた背景があり，修辞学的な要因から現代においてもなお *un-* 派生語の使用頻度が高いことに起因する（Szcepaniak 2011[2], 46，磯部　2006，36）。

本研究では，学習者向け辞書の意味記述の観点から，まずは *un-* の派生語と基礎語の意味的な対立関係について考察をおこなう。接頭辞 *un-* は結合する基礎語の反義語を造り出すとされるが，基礎語と派生語の対立関係はさらに反義（Antonymie）と相補（Komplementarität）の関係に分類することができる。特に形容詞の派生語の場合，基礎語の反義の意味をあらわすか，相補の意味をあらわすかは，基礎語の形態や意味によって異なる。しかしながら，これまでの *un-* の造語モデルには，基礎語の形態の区分や反義・相補の

[1] Vgl.『独和大辞典』（2000[2]），『アクセス独和辞典』（2018[3]）。

[2] Vgl. Paul u.a. 1998[24], 398。

意味の相違は記述されてこなかった。そこで本論文では，独和辞書に見出し語として掲載されている *un-* の派生語の形態的特徴と日本語による意味記述から *un-* の派生語と基礎語の反義と相補の対立関係について分析していく。その上で，独和辞書の記述を基に学習者が *un-* の派生語の用法を正しく理解できる手がかりを探る。

２．*Un-* の造語モデル

造語モデルとは，造語を形成する構成語（Konstituente）間の語形態と意味の関係性をあらわす構造のことをいう。同一の語構成によって，新たな語が形成される際にはこの構造が「ひな型（Strukturschema）」として機能する（Fleischer/Barz 2012, 68）。造語モデルは「形態・統語的（morphologisch-syntaktisch）」な記述と「語彙・意味的（lexikalisch-semantisch）」な記述からなり，後者は，造語意味（Wortbildungsbedeutung）とも呼ばれ，構成語間の意味関係をあらわす（o.a., 47f.）。Motsch（1999, 15ff.）では，造語モデルが，造語の意味モデル（SM: ein semantisches Muster），音韻（PF: die phonologische Form einer Lexikoneinheit），語形態（X：基礎語の品詞，Y：造語の品詞）によって，次のような形式であらわされる[3]。

（1） $[\text{SM; (Präfix-) PF}_X\text{ (-Suffix)}]_Y$

このモデルを使用すると，接頭辞 *un-* の造語モデルは次のようになる。

（2） 基礎語が形容詞 (A)　$[\text{NON (A); } \textit{un}\text{-PF}_A]_A$
　　基礎語が名詞 (N)　$[\text{NON (N); } \textit{un}\text{-PF}_N]_N$

ここでの造語の意味モデル NON は，派生語 $_A$ ないし派生語 $_N$ が基礎語の「A あるいは N の意味を否定する」ということを示している[4]。

2.1. 基礎語の品詞と形態

Un- と結合する基礎語の品詞は，分詞を含む形容詞が最も多く，他に名詞，稀に副詞とも結合する。また単一語（Simplex）に限らず，*un-* 以外の造語形態素をもつ派生語とも結合する。例えば，基礎語が形容詞の場合には，単一の自由形態素（freies Morphem）である派生語（z. B. *frei - unfrei, klar - unklar, klug - unklug*）に比べ，基礎語が *un-* 以外の造語形態素，つまり拘束形態素（gebundenes Morphem）をもつ派生語（z. B. *achtsam - unachtsam, christlich - unchristlich, förmig - unförmig*）であることが多い（Fleischer/Barz o.a., 352）。しかし，これまでの研究では，*un-* の造語モデルは，基礎語の造語形態素を区分して記述されてこなかった。例えば Motsch（1999）のモデルを参考に，基礎語に拘束形態

[3] Motsch（1999, 4ff.）では，造語モデルと同じ定義で「造語見本（Wortbildungsmuster）」という用語を使用しているが，本論文では，造語モデルという用語を統一して使用する。

[4] A = Adjektiv（形容詞），N = Nomen。

素をもつ *unachtsam*（不注意な）と *unerträglich*（耐え難い）の造語モデルを記述すると次のようになる。

(3) unachtsam
a.unachtsam [NON (A); (un-) PF_A (PF_V -sam)]$_A$
b.achtsam [TUN ($V_{aktivisch}$); PF_V -sam)]$_A$
c.unachtsam [NON (A); (un-) PF_A [TUN ($V_{aktivisch}$); PF_V -sam)]]$_A$

(4) unerträglich
a.unerträglich [NON (A); (un-) PF_A (PF_V -lich)]$_A$
b.erträglich [MÖGLICH ($V_{aktivisch}$); PF_V -lich)]$_A$
c.unerträglich [NON (A); (un-) PF_A [MÖGLICH ($V_{aktivisch}$); PF_V -lich)]]$_A$

派生語 *unachtsam* の基礎語 PF_A は，動詞語幹 *acht(en)* と接尾辞 *-sam* からなり，PF_A の形態は（3a）内の（PF_V -sam）と記述することができる。（PF_V -sam）の形態をもつ *achtsam* の造語モデル（3b）を（3a）に挿入すると（3c）の記述となる。同様に *unerträglich* の基礎語 PF_A は，基礎語 PF_v である *ertrag(en)* と接尾辞 *-lich* からなる。基礎語 PF_A の造語モデル（4b）を（4a）に挿入すると（4c）のような造語モデルが記述できる[5]。

このように接頭辞 *un-* は，基礎語の形態素の種類に応じて，異なる造語モデルをもつ。派生語の接尾辞の形態が異なれば，その接尾辞のもつ造語意味に *un-* の造語意味が影響を与えることになる。特に形容詞の基礎語には，接尾辞 *-bar* を伴う語や分詞形態素をもつ語があり，名詞に比べると語形態の種類が多い。それゆえ，形容詞派生語の場合，単一の造語モデルでは，*un-* 派生形容詞の意味をすべて記述することは難しい。

2.2. 造語意味ー反義と相補

名詞を基礎語とする派生語の中には，すでに造語意味を失っている語（例は前掲）や極限的な概念をあらわす語（z. B. *Unmasse*（莫大な量），*Unzahl*（無数），*Untiefe*（（底が知れないほどの）深み）などがあり，これらと基礎語の間には，すでに意味的な対立関係が失われていることがある。それに対して，形容詞を基礎語とする派生語は，基礎語と意味的に対置し，反義あるいは相補の関係をあらわす。反義の関係とは，二つの語が，ある指標上に対置する場合を反義の関係といい，相補の関係は，二つの語の間に成立する対関係のことをいう（Löbner 2003, 123ff.）。

(a) 反義の語の組み合わせ
alt – jung, groß – klein, dick – dünn, hell – dunkel, leicht – schwer

[5] MÖGLICH（$V_{passivisch}$）は，動詞によってあらわされる動作の受動と可能の意味をあらわす。Motsch（1999, 54）では，こうした受動的な意味が含まれる場合，V が陳述の対象となる *eine Thema-Stelle* と記述されるが，本論文では明確な意味記述のため passivisch（受動的）と表記している。また Motsch（1999）で記されていない意味モデルは，Fleischer/Barz（2012）の造語意味を参照して記号化した。

(b) 相補の語の組み合わせ
tot – lebendig, ledig – verheiratet, frei – besetzt

反義の対立関係にある語の組み合わせは，例えば年齢（Alter）の指標では，*alt*（年老いた）と *jung*（若い）が対置し，大きさ（Größe）の指標では，*groß*（大きい）と *klein*（小さい）が対置する。これらの語は比較表現が可能であり，意味の関係性は次の図のようにあらわすことができる。

Abb. 1: *klein* と *groß* の反義関係（Vgl. Löbner o. a., 124）

反義の語の組み合わせには，それぞれの意味の間に中間領域（Neutralbereich）が存在する。このことは，一方の意味の否定が他方の意味の肯定と一致しない，つまり *etwas ist nicht groß* には *etwas ist klein* の意味は含まれず，*etwas ist weder groß noch klein*（大きくもなく，小さくもない）といい換えることができる。これに対し，相補の語の組み合わせは，一方の意味の否定が他方の肯定の意味と一致する。例えば，*nicht tot*（死んでいない）は *lebendig*（生きている）であり，*nicht ledig*（未婚ではない）は *verheiratet*（既婚である）と意味が一致する。

Un- による派生語は，基礎語と意味的に対置する場合，反義あるいは相補のいずれかの意味をあらわし，基礎語の性質によってその対立の関係性が異なる（Löbner o.a., 127, Fleischer/Barz o.a., 353）。例えば，*klug*（賢明な）と *unklug*（賢明ではない）は，反義の対立関係にある。基礎語 *klug* の反義語として *dumm*（愚か）が意味的に対置し，*unklug* は，Abb. 1内の中間領域に位置する。*Dumm* の否定は，*klug* の肯定と同じ意味にはならない（vgl. *Jemand ist nicht dumm ≠ Jemand ist klug*）。*Klug*，*unklug*，*dumm* の３つの語の意味を参照すると次のように記述されている[6]。

(5) **klug**: a) *mit scharfem Verstand, logischem Denkvermögen begabt, davon zeugend; intelligent, b) gebildet, gelehrt, lebenserfahren, weise c) vernünftig, sinnvoll;[taktisch]geschickt und diplomatisch [vorgehend]; schlau*
unklug: *taktisch, psychologsich nicht geschickt*
dumm: *nicht klug, von schwacher, nicht zureichender Intelligenz*

Unklug が *taktisch*，*psychologisch nicht geschickt*（戦略的，精神的に器用ではない）という *klug* の意味内容を部分的に否定する記述となっているのに対し，*dumm* は *nicht klug* という記述から *klug* の対極に位置する反義語であることがわかる。

続いて，相補の関係にある語の例としては，*fähig*（能力がある）と *unfähig*（能力がない）が挙げられる。*Fähig* の否定は *unfähig* の肯定の意味と一致し，*unfähig* の否定もまた

[6] 以下，ドイツ語の意味記述は DUDEN（2006[6]）を参照する。

fähig の肯定の意味と一致する。辞書の意味記述を参照しても，その関係性を確認することができる。

(6) **fähig**: *zu etw. in der Lage, imstande sein*
unfähig: *zu etw. nicht imstande sein*

反義の関係にある *klug* と *unklug* は，基礎語 *klug* が比較表現の可能な形容詞であり，また *dumm* という対極する反義語が存在するのに対し，*fähig* は，比較表現ができない性質の形容詞であり，対極する反義語をもたない。

反義と相補の関係性は，*klug* や *fähig* といった単一語を基礎語とする場合には，基礎語の意味から明確な分類が可能である。しかし基礎語が拘束形態素をもつ場合には，このように明確に区分することはできない。この場合，基礎語がすでに他の造語モデルをもち，そこにある意味モデルが派生語全体の意味内容に影響を与えているからである（参照2.1.）。例(4)で指摘したように，*unerträglich* の基礎語には，MÖGLICH（可能）という意味モデルが存在する。接頭辞 *un-* の意味モデルである NON（否定）は，意味モデル MÖGLICH に影響を与え，この場合には可能の程度が否定されることになる。*Unerträglich* と *erträglich* のドイツ語による意味記述をみると，次のように説明されている。

(7) **unertäglich**: *kaum zu ertragen*
erträglich: *sich ertragen lassend*

Unerträglich は *kaum* という副詞を用いて説明がされているが，この *kaum* もまた *fast gar nicht*（ほぼ全く～ない），*nur mit Mühe; unter Anstrengungen*（かろうじて）といった表現に言い換えることができる。つまり *unerträglich* は *ertragen* できる可能性が極めて低い状態ではあるが，かろうじて *ertragen* できる状態であることをあらわす。例えば *unerträglich* の使用例をみてみると次のような例がみられる[7]。

(8) Das Dröhnen in seinem Kopf war jetzt fast <u>unerträglich</u>.
（彼の頭の中の轟きは今やすでにほぼ耐えられなかった。）
(9) Das Plätschen eines Springbrunnes schien bei Nacht <u>unerträglich</u> laut.
（噴水の音は夜になると耐え難いほどうるさい。）
(10) Daniel fand Dresden <u>unerträglich</u> provinziell.
（ダニエルはドレスデンを耐え難いほど田舎くさいと思った。）

いずれの例も *ertragen* できる可能性が極めて低い状態・様子をあらわす表現になっている。例(8)では *unerträglich* は，*beinahe, nahezu* の同義語である *fast* という副詞と共起している。例(9)，(10)では，被修飾語の *laut, provinziell* に関して「極めて耐え難い」様子が伝えられて

[7] 以下，用例は，DWDS コーパス（https://www.dwds.de）から引用する。下線，日本語訳は著者による。

いる。

また *nicht erträglich* と *unerträglich* の用例を対照すると，意味的には大きな相違はみられない。しかしながら共起可能な副詞の種類が異なることが確認できる。

⑾ Alles ist wahr, und es ist fast nicht erträglich.
（すべては真実で，そのことはほぼ耐えられることではない。）

⑿ Vielleicht wäre die Wüstheit und Erbitterung der modernen Konkurrenz überhaupt nicht erträglich, [⋯].
（恐らくは，現代的な競争の殺伐感と憤懣は全くもって耐えられないことでしょう。）

例⑾は，例⑻と同じ副詞 *fast* と共起し，MÖGLICH（可能）の程度が極めて低い状態が表現されている。それに対し，例⑿は副詞 *überhaupt* と共起し，強調的な否定表現となっている。*Unerträglich* の用例には *überhaupt* と共に用いられている例はみられず，*unerträglich* は *nicht erträglich* と *erträglich* の中間領域の程度をあらわすことしかできない。*Etwas ist nicht ertärglich* は，*etwas ist unerträglich* と極めて近い意味をあらわすが，*erträglich* と *unerträglich* の間には相補の関係はない。

また *erträglich* には下のような比較表現の用例がみられる。

⒀ Daß es alt ist, macht es nicht ertäglicher.
（古いということが，そのことをより耐えられるようにはするということはなかった。）

⒁ Millionen von Deutschen, [⋯], wurden aus ihrer angestammten alten Heimat vertrieben, ihre Reste einer erzwungenen Polonisierung unterworfen, die nicht erträglicher war als früher die Germanisierung.
（何百万人のドイツ人が，自分たちの故郷から追われ，残りのドイツ人は，強制的なポーランド化に屈服した。ポーランド化は，以前のゲルマン化よりも耐えられるというものではなかった。）

Unerträglich は，*erträglich* と意味的に対置する *nicht erträglich* と意味的には相違はない。しかしながら *unerträglich* は *erträglich*（耐え得る）という指標において，*erträglich* と *nicht erträglich* の中間領域の意味をあらわす。*Unerträglich* と *erträglich* は反義の関係性にあり，このことは基礎語内の意味モデル MÖGLICH（可能）が変動する程度をあらわすことに起因している。

以上みてきたように接頭辞 *un-* は，基礎語に他の造語モデルが存在する場合，その中にある意味モデルが派生語の意味内容に影響を与える。

3．独和辞書の記述

3.1. 見出し語の品詞と形態

ここでは独和辞書の記述から *un-* の派生語の造語意味を考察していく。独和辞書の見出し語には1026語の *un-* 派生語が掲載されている。それらを品詞別に区分すると，形容詞が全体の７割を占め，次に名詞，副詞そして前置詞が続く。それぞれの語数を表に示すと次のようになる[8]。

品詞	見出し語数	見出し語例
形容詞	707	*unabänderlich, unabdingbar, unabhängig, unablässig*
名詞	286	*Unart, Ungunst, Unklarheit, Unruhe, Untat, Untugend*
副詞	29	*uneigentlich, unbesehen, unversehns, ungesehen*
前置詞	4	*ungeachtet, unweit, unfern, unbeschadet*
計	1026	

Tabelle 1：『アクセス独和辞典』（2018[3]）の *un-* 派生語見出しの品詞

さらに形容詞707語の基礎語を形態的な特徴で分類すると，拘束形態素を伴う語は全体の約９割に達する636語が見出し語として掲載されており，単一語が基礎語となるものは70語しか掲載されていない。拘束形態素の種類別にみると，接尾辞を伴う語を基礎語とする語は全体の半数を超え，基礎語を過去分詞とする語がそれに続く[9]。

基礎語の形態的特徴	見出し語数	見出し語例
単一語	70	*unfair, ungerade, ungesund, unrein, unscharf*
複合語	1	*unsachgemäß*
拘束形態素を伴う	636	
計	707	

拘束形態素の種類	見出し語数	見出し語例
接尾辞	376	
-lich	150	*unabsichtlich, undeutlich, unerhlich, ungesetzlich*
-bar	106	*unantastbar, unausdenkbar, unfehlbar, unlösbar*
-ig	76	*unbarmherzig, unförmig, ungiftig, unlustig, unschuldig*
-isch	22	*unmoralisch, unbürokratisch, unlogisch, unharmonisch*
-sam	10	*unduldsam, ungehorsam, unliebsam, unwegsam*
-haft	6	*unehrenhaft, unglaubhaft, untadelhaft, unstatthaft*

[8] 本研究の分析にあたり，『アクセス独和辞典』の編集責任者である在間進氏に見出し語データの分析を許可していただきました。研究のご協力に改めて感謝申し上げます。

[9] ここでは語の形態に着目するため *unfasslich* と *unfassbar* といった同じ動詞語幹 *fass(en)* をもつものも接尾辞の形態別にそれぞれ１語とする。

その他の接尾辞	6	*unheilvoll, unsentimental, unrentabel*
過去分詞形態素	249	*unangebracht, unartikuliert, unbeachtet, unbeirrt*
現在分詞形態素	11	*unbedeutend, unwissend, unzureichend, unzutreffend*
計	636	

Tabelle 2：基礎語の形態的特徴

また拘束形態素のうち，造語形態素の種類をみると接尾辞 *-lich* と *-bar* が全体の半数以上をしめる。接尾辞 *-lich* を伴う基礎語の品詞をさらに下位分類すると，動詞，名詞，形容詞の３つに分類することができる。語数でみると150語のうち117語が *unerträglich* のような複合的な造語モデルをもつ。

基礎語の品詞	見出し語数	見出し語例
動詞	117	*unansehnlich, unausbleiblich, unbedenklich, unempfindlich*
名詞	31	*unchristlich, unendlich,unglücklich, unhöflich, unheimlich*
形容詞[10]	2	*unähnlich, unwahrscheinlich*
計	150	

Tabelle 3：接尾辞 *-lich* を伴う基礎語の品詞

見出し語として掲載されている *un-* による派生語がこのように多様な形態的特徴をもつことを踏まえ，本章では多様な形態に応じた意味記述に基づいて，*un-* の派生語と基礎語の反義と相補の二つの対立関係を考察していく。

3.2. 見出し語の意味記述

それぞれの見出し語に関する日本語の意味記述をみていくと，動作，状態・対象事物に関する記述に分けることができる。動作の遂行の難易度や可能性，完了性に関する記述は，基礎語が動詞語幹と接尾辞からなる派生語の項目に，状態・対象事物に関する記述は，基礎語が単一語の形容詞，あるいは，名詞語幹と接尾辞からなる派生語の項目にみられる。

3.2.1. 動作に関する意味記述

動作に関する意味記述では，「(動作）が遂行し難い」,「(動作）が遂行しにくい」といった遂行の難易度や,「(動作）ができない」といった遂行の可能性に関する３つの種類の表現にまとめることができる。これらの意味が記述される派生語は，接尾辞 *-lich*，*-bar* を伴う語を基礎語とし，*unerträglich* と同じ造語モデルをもつ（参照（4c))。また，過去分詞形が基礎語である場合には「(動作）が完了されていない」といった未完了の意味記述となる。これは中高ドイツ語の時代に *sîn* や *haben, lâzen* を本動詞とする文を否定する際に，共に用いられる過去分詞の語頭に *un-* が付加されていた用法に起因する（vgl. Paul u.a. 1998[24], 398)。こうした異なる意味記述は，基礎語内の動詞語幹の意味，接尾辞の造語意味の相違によるものである。例えば，基礎語が他動詞の動詞語幹と接尾辞 *-bar* からなる場合には，受

[10] ここでは構成要素である基礎語と接尾辞の造語意味がすでに消失し，単一語として意味をあらわす語を形容詞と区分した。

動（～される）と可能（～できる）の意味が記述され，過去分詞からなる場合には，動作の完了の意味とさらに動詞が他動詞の場合には受動の意味が記述される。それぞれの見出し語と意味記述の例を挙げると次のようになる。

意味区分	見出し語例	意味記述の例
遂行の難易度	*unaussprechlich* *unfassbar* *unerfindlich* *unwiderstehlich*	筆舌に尽くしがたい 理解しがたい 理解しがたい 抗しがたい
遂行の可能性	*unausführbar* *unbewohnbar* *unergründlich* *unverbesserlich*	実行できない 住むことができない 解明できない 改善できない
動作の完了性	*ungeklärt* *ungenutzt* *ungestempelt* *ungezuckert*	解明されていない 使われていない 消印の押していない 砂糖を加えていない

Tabelle 4：動作に関する意味記述

３つの種類の意味記述から *un-* 派生語の基礎語に対する反義と相補の関係性を考察すると，遂行の難易度以外は，基礎語と相補の関係にあると判断することができる。可能性と完了性はいずれも，可か不可か，完了か未完か，の二者択一で意味を区分するものであり，そこに中間領域は存在しない。それに対して，遂行の難易度が記述されている派生語は，*unerträglich* と同様に基礎語に対置する反義に極めて近い程度，つまり極めて遂行の難易度が高いことをあらわす語であり，基礎語とは反義の関係にあるといえる。

遂行の難易度が記述される派生語は，程度が際立っていることを表現する強調的・印象的な表現に用いられることが多い。これらはまた，派生語に対置するはずの基礎語を持たない，あるいは，すでに語として使用されなくなっている。例えば *unasusprechlich* の用例をみると，否定の意味をあらわす形容詞として，被修飾語の特徴を強調的・印象的に表現しているものがみられる（以下の例⒂，⒃を参照）。その基礎語である *aussprechlich* を参照すると，語彙として辞書に収録されておらず，コーパスにはその用例もみられない。

⒂ Ich drücke mein Haupt auf das Kissen des Sofas, eine unaussprechliche Leere erfüllt mein Inneres.
（私はソファのクッションに頭を押しつぶし，いいあらわせないような空虚が私の心を満たした。）

⒃ Ich kann meine Erfahrung nicht ausdrücken, ich lebe im unaussprechlichen Bereich.
（私は自身の経験を表現することはできない，私はいいあらわせないようなところに生きている）

同様に，遂行の可能性に分類される派生語の中でも *unasusprechlich* のように強調的な表現として用いられる語もある。例えば *unergründlich* の用例をみると，*Leben*（人生）や

Sehnsucht（憧れ）といった語と共起し，それらの解明の困難さを強調し印象付ける表現に用いられている。

⑰ Das Leben ist wundersam und zaubervoll und hinreißend und in Schönheit strahlend und selig und magisch und gaukelnd und unergründlich.
（人生は奇妙で，魅惑的で，美しさの中で輝きながら，この上なく幸せで魔法のようで，ゆれ動く，解明できないものである。）

こうした *unasusprechlich* や *unergründlich* のように，基礎語をもたず，強調表現に用いられるような派生語は，「しがたい」，「できない」といった日本語の意味記述に基づいて反義，相補といった否定表現に分類することは困難である。これらの語は，基礎語 *erträglich* の反義の派生語である *unerträglich* や基礎語 *bewohnbar* の相補の派生語である *unbewohnbar* といった派生語とは，基礎語をもたないという点で決定的に異なる性質をもっており，同じ形態をもつ派生語の中でもさらに意味的な分類が必要である。

3.2.2. 状態・対象事物に関する意味記述

状態・対象事物に関する記述は，基礎語のあらわす状態あるいは様子に対して「（状態）ではない」，対象事物に対しては「（対象事物）に反した」，「（対象事物）が無い」，「（対象事物）らしくない」といった４つの表現にまとめられる。これらの意味が記述されている派生語は，単一語の形容詞，あるいは，名詞語幹と接尾辞 *-ig*，*-lich*，*-sam* からなる基礎語をもつ。これらの意味記述は，基礎語の品詞または，基礎語内にある名詞語幹の意味によって異なる。

意味区分	見出し語例	意味記述の例
状態	*unkorekkt* *untreu* *unzufrieden* *unvollkommen*	正しくない 忠実ではない 満足していない 不完全（＝ 完全ではない）
対象事物（反する）	*unsozial* *unnatürlich* *unsittlich*	社会に反した 自然に反した 公序良俗に反した
（無い）	*unpersönlich* *ungiftig* *unendlich* *unwert*	無個性（＝ 個性のない） 毒のない 無限の（＝ 終わりのない） 価値のない
（らしくない）	*unkindlich* *unmännlich* *unsportlich*	子供らしくない 男らしくない スポーツマンらしくない

Tabelle 5：状態・対象事物に関する意味記述

「（状態）ではない」，「（対象事物）が無い」，「（対象事物）らしくない」といった意味記述で説明される派生語は，基礎語のあらわす意味と対置し，それぞれの基礎語と相補の関係にあるといえる。「（対象事物）に反する」という意味が記述される派生語については，厳密に意

味を記述すると，反義，相補のいずれでもなく，基礎語とは方向的な対置関係（direktionale Opposition）にあると解釈することができる。例えば *unsozial* の意味は，*gegen die Interessen sozial Schwächerer gerichtet*（社会的弱者の利益に反する）といったように説明され，この説明から解釈すると *unsozial* と *sozial* は，GEGEN の関係で対置していることになる。

また，対象事物に関する意味をあらわす派生語の中でも名詞語幹を基礎語内にもつ場合は，その他の派生語とは異なり，複数の意味が記述される。例えば，基礎語内に名詞 *Person* をもつ *unpersönlich* は「① 非個性的なこと，無個性 ② 個人的感情を交えないこと，事務的なこと」といった意味が記述されているが，次の用例ではコンテクストから②の意味記述が適切であると判断できる。

⑱ Sebastian Kurz, der Wählerinnen und Wähler im Sturm erobert hat, weil er im persönlichen Umgang höflich, zugewandt und nett ist – derselbe Sebastian Kurz formuliert kühl, hart und <u>unpersönlich</u>, wenn es um das Thema Flüchtlinge geht.
（Der Standard, 9. 10. 2018）
（セバティアン・クルツは，投票者たちの心を一挙につかんだが，それは彼が，個人的な付き合いにおいては，礼儀正しく，好意的に接し，親切であるからだ。そのセバスティアン・クルツが，こと難民の話題となると，冷酷で厳しく，そして個人的感情を交えずに表現する。）

例⑱では先行する基礎語 *persönlich*（個人的な）との対比で *unpersönlich* が用いられていることからも，ここでは②の「個人的感情を交えない，事務的なこと」の意味をあらわしており，相補の関係となる「個性の有無」とは異なる対比関係にあることがわかる。同じく名詞 *Christ* を基礎語内にもつ *unchristlich* も「非キリスト教的な；キリストの教えに反する」といった意味記述がされているが，前者の場合，基礎語とは反義の関係にあり，後者の場合には，方向的な対置関係にある。次の例⑲では，比較表現が用いられており，このことからもここでは *unchristlich* が基礎語に対して反義の関係性をあらわしていることがわかる。

⑲ Ich hatte Christen kennen gelernt, die <u>unchristlicher</u> gegen mich verfahren waren, als Juden, Türken und Heiden verfahren würden.
（私はキリスト教徒たちと知り合った。彼らは私に対して，ユダヤ人やトルコ人，異教徒たちがとる態度よりも非キリスト教的なふるまいであった。）

このように基礎語内に名詞語幹をもつ *un-* 派生語の意味は，周辺のコンテクストによって決定される。これは名詞の多義性に起因するが，人物をあらわす名詞と結合する *un-* の用例は少なく，即席（ad-hoc）に形成されるものが多いことも要因の一つと考えることができる[11]。これについては名詞派生語の分析の際に詳しく論じていきたい。

[11] Vgl. Fleischer/Barz 2012[4], 260.

４．おわりに

本論文では，否定接頭辞 *un-* の造語意味を中心に，派生語の品詞と形態，それらによってあらわされる反義と相補の意味について考察をおこなった。「否定・反義をあらわす派生語を造る」としか解説されない接頭辞 *un-* の造語意味は，基礎語自体がもつ造語意味と影響し合い，複合的な意味をあらわす。そのため，形成された派生語は必ずしも基礎語の反義語と位置付けられるわけではない。*Un-* 派生語は，その基礎語のもつ形態的・意味的特徴と，場合によってはコンテクストに依存し，基礎語と反義，相補，ときに方向的に対置する関係をあらわす。こうした接頭辞 *un-* 派生の用法は，独和辞典の日本語による意味記述だけで正確に理解することは困難であり，それを学習効果的に整理するためには，語の形態的特徴と基礎語の意味的特徴についてより詳細な分析が必要である。このことを踏まえて，さらに *un-* 派生語の文体的・修辞学的な役割やコンテクストとの関係性について個々の派生語の事例を研究していくことが今後の課題である。

使用コーパスとテキスト

DWDS https://www.dwds.de
Der Standard (https://derstandard.at)

一次文献

DUDEN (2006): *Deutsches Universalwörterbuch*. 6., überarbeitete und erweiterte Auflage. Mannheim u. a.
川島淳夫ほか（1994）:『ドイツ言語学辞典』紀伊国屋書店。
国松孝二ほか（2000）:『独和大辞典』第二版，コンパクト版，小学館。
Kluge, Friedrich (1975) : *Etymologisches Wörterbuch der deutschen Sprache*. 21. Aufl. Berlin & New York.
在間進編著（2018）:『アクセス独和辞典』第三版，三修社。

二次文献

有光奈美（2016）:「英語の接頭辞 un- を伴いながら反義語と認識されにくい事例について―canny と uncanny の非対称性―」In :『東洋大学人間科学総合研究所紀要』第18号，pp. 17-40。
磯部美穂（2006）:「テキストの表題における造語法―その表現機能と後方照応機能―」In :『セミナリウム』第28号，pp. 29–47。
Fleischer, Wolfgang / Barz, Irmhild (2012): *Wortbildung der deutschen Gegenwartssprache*. 4., Aufl. Berlin.
Löbner, Sebastian (2003): *Semantik. Eine Einführung*. (übersetzt aus dem Englischen vom Autor). Berlin.
Motsch, Wolfgang (1999): *Deutsche Wortbildung in Grundzügen*. Berlin & New York.
野入逸彦・太城桂子（2002）:『語彙・造語』，大学書林。
Paul, Hermann u.a. (1998): *Mittelhochdeutsche Grammatik*. 24. Aufl. Tübingen.

Sennekamp, Marita (1979): *Die Verweundungsmöglichkeiten von Negationszeichen in Dialogen. Ein dialoggrammatischer Ansatz mit empirischer Überprüfung an Texten gesprochener deutscher Standardsprache*. In: *Heutiges Deutsch. München*. (Reihe I: Linguistische Grundlagen. Forschungen des Instituts für deutsche Sprache).

Szcepaniak, Renata (2011): *Grammatikalisierung im Deutschen. Eine Einführung*. 2. Aufl. Tübingen.

Wells, Christopher J. (1990): *Deutsch: eine Sprachgeschichte bis 1945*. (aus dem Englichen von Rainhild Wells). Tübingen. (Reihe germanische Linguistik = 93).

Wortbildungsbedeutung des Privativpräfixes *un-*

Eine Analyse von ihren Lesarten im Deutsch-Japanischen Wörterbuch:

Antonymie und semantische Komplementarität

Miho Isobe

Dieser Beitrag beschäftigt sich mit den semantischen Oppositionstypen Antonymie und Komplementarität, die durch die Präfigierung mit *un-* entstehen. Die Wortbildungsbedeutung des Präfixes *un-* wird in der bisherigen Forschungsliteratur (Fleischer/Barz 2012[4], 115; Motsch 1999, 311ff.; Noiri/Tashiro 2002, 146) trotz seiner hohen Produktivität als Affix und seiner häufigen Verwendung aus rethorischen Gründen lediglich mit der Verneinung der Bedeutung eines Basiswortes erklärt, wodurch das Präfix *un-* „Privativpräfix" genannt wird. Seine Ableitungen struktuieren sich jedoch morpho-semantisch so unterschiedlich, dass sie genaugenommen nicht in einer semantisch oppositionellen Beziehung mit ihren Basiswörtern stehen. Die einen stehen in einer Beziehung der Antonymie mit ihren Basiswörtern (z. B. *unklug* und *klug*). Die anderen dienen als semantisch komplementäre Opposition gegen ihre Basiswörter (z. B. *unfähig* und *fähig*). Dieser präzisere, aber auch aus didaktischer Sicht zu erklärende Unterschied ist in erster Linie auf die Bedeutungen der Basiswörter zurückzuführen. Allerdings wirken auch die gebundenen Morpheme der Basiswörter wie die Suffixe *-lich, -bar* oder *-sam* mit der Bedeutung des präfigierten Wortes zusammen, denn sie behalten selbst eine andere Wortbildungsbedeutung als die des Präfixes *un-* bei. Die Ableitungen mit *un-* lassen sich dennoch mit einem verallgemeinerten Wortbildungsmodell interpretieren, das sich nur mit einer morphologisch-syntaktischen Struktur konstruiert, ohne die jeweiligen Morpheme der Basiswörter zu unterscheiden.

Aus Rücksicht dieser Wortbildungslehre zieht die vorliegende Arbeit die Ableitungen mit *un-* möglichst systematisch sowie umfassend in Betracht. Die Stichwörter mit dem Präfix *un-* werden zunächst aus einem Deutsch-Japanischen Wörterbuch ausgesucht, um sie nach ihrer Wortart und ihrem gebundenen Morphem zu klassifizieren. Aufgrund dieser morphologischen Klassifizierung wird die japanische Formulierung der jeweiligen Wortbedeutung vor Augen geführt. Aus der didaktischen Sicht wird verdeutlicht, wie sich die Wortbildungsbedeutung des Präfixes *un-* im Japanischen wiederspiegeln kann.

（2019年４月30日受理，５月21日掲載承認）